

統計を読む（中国「マイナス成長」！）

大阪府連副会長 山本恒人

中国第1・四半期

GDPマイナス成長

中国国家統計局は第1・四半期（1~3月）の経済成長（GDP増加）率が前年同期に比べて▼8%と、マイナスとなつたことを発表しました（『人民日報』4月17日、日本各紙も一斉報道）。経済成長率が21世紀初期の10%台から2019年の6.1%へと「減速」（経済の増え方の幅が小さくなる）していると

いう言葉は聞いても、中国では「マイナス」（規模の縮小）という言葉はこのところありますから、驚かれたことでしょう。

確かに「武漢大封鎖」をはじめコロナ・ウイルス肺炎症との「人民戦争」の徹底は、中国経済に深い傷を与えたのです。詳しくは「友好新聞」4月25日号、5月5日号の山本の連載記事「コロナ禍不況と中国の存在」（上・下）をお読みください。

それでも通年では
プラス成長を維持

先ず、▼6.8%の意味を確認しておきましょう。これは2020年1~3月期のGDPが2019年1~3月期のGDPと比べて6.8%マイナスとなつた、ということです。そしてマイナスという事態は、中国が1992年に「四半期ごとの対前年同期比経成長率」統計の公表を開始して以来、初めての出来事なんのです。この傾向が2020年の残る3つの四半期に続くとす

れば、通年すなわち2020年

なってします。

全体の経済成長率がマイナスになつてしまます。

しかし、「世界銀行」の予測（2020年3月30日発表）で

て、中国の2020年通年の経

済成長率は3.2%、悲観的なシナ

リオの場合でも0.1%と辛うじて

プラス経済成長となるよう

です。

（中国の2020年通年の経

済成長率は2.3%、悲観的なシナ

リオの場合でも0.1%と辛うじて

プラス経済成長となるよう